

Title	序(白石孝教授退任記念号)
Sub Title	
Author	清水, 龍瑩
Publisher	
Publication year	1987
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.30, No.1 (1987. 4) ,p.A1- A2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19870425-04054183

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

1987年の春、われわれの敬愛する白石孝教授は慶応義塾を定年退職されることになりました。白石先生は、商学部創立以来30年間つねにその中枢に居られ、その歴史とともに歩まれ、今日の商学部を築かれた最高の功労者のお一人です。

先生は典型的な慶応ボーイで、昭和10年普通部に入学されてから50年以上の長きにわたり慶応義塾に関係をもってこられました。いつも胸に白いハンカチを差し、きちっとした背広に身をつまみ、髪を揃え、縁なし眼鏡の下に笑みを浮かべ、たまにその笑みが消えると、どこかお体の調子でも悪いのではないかと尋ねたくなるほど、スマートな慶応ボーイです。講義でもふだんの会話でも、早口の江戸弁で喋られ、小生なども初めて先生の講義をお聞きしたとき、ペランメエでないチャキチャキ江戸弁というのはこういうものかと感心した程でした。

先生は昭和18年慶応義塾経済学部を御卒業になり、同22年経済学部副手に任命され、その後経済学部助教授を経て、同33年に商学部教授に就任されました。その後慶応義塾常任理事、商学部長などの要職を歴任され、同59年に学校法人杏林学園が大学設置を計画するや、慶応義塾全体の興望を担ってその設立に尽力され、現在は慶応義塾大学客員教授であると同時に杏林大学の社会科学部部長の職にあられます。先生は、つねにこのように塾のためを思い、こと塾となるとたゞたゞ一途に寝食を忘れて活躍される方でした。同大学設置のための研究者集めには文字通り東奔西走して塾出身者を探し求め、その気迫に押されて他大学経営者は多くのスタッフを、惜しみながらも杏林大学に移籍せざるをえなくなりました。しかし何と言っても、先生の塾思いは、あの忌まわしい商学部事件のとき遺憾なく発揮されました。先生が居られなかったならば、あのような徹底的な悪の追求はできなかったと思います。普通部以来培われてきた塾の精神が怒りに燃えなければあのような徹底的な追及はできなかったはずです。あの時はさすがにシンボルマークの笑みは消え、白い髪が生えほうだいになり、縁なし眼鏡が黒眼鏡に変わり、鬼気迫る様子でした。あのお蔭でその後商学部はすっかり風通しのよい学部となり、現在の隆盛を誇っています。

先生の学問業績については論をまちません。昭和24年に経済学部助教授になられるや直ちに『国際貿易の基礎理論』、『貿易政策要論』などの名著を世に問われ、若き研究者として学会に大いに注目されました。その後先生は一貫して、学説史と貿易政策の歴史を追求され、現在までに膨大な数の論文を発表されています。論文の内容は精緻をきわめ、学説についてはリカードなどの古典派からケインズ、ハロッドの近代貿易論まで丹念に論述され、また貿易政策については、長期的な経済

発展の流れに視点を据えられ、日本の戦後の貿易政策の変遷などを追及分析してこられました。その業績は内外の学界で非常に高く評価され、昭和57年からは国際経済学会理事、International Economic Association 日本代表理事などの要職に推されています。さらに同61年には、未だ私大出身者では前例がないと言われている、日本経済学会連合会理事長の要職に推挙され現在に至っています。

このように名実ともに商学部の看板教授であられる白石先生が当学部を去られることを、われわれ後進は心から淋しく思っております。われわれはその淋しさにたえ先生のお示し下さった商学部の教育、研究の道を及ばずながら一所懸命追っていきたいと思っております。先生におかれましても、御自愛御加餐下され、末長く商学部の発展にお力添え下さいますよう、心からお願い申し上げます。

1987年 1月

商学部長

清 水 龍 瑩